



日本共産党・前県会議員

2022年10月15日号

加藤なを子活動レポート



県政へのかけ橋

発行：日本共産党・加藤なを子事務所

<連絡先> 藤沢市藤沢2-3-2

Tel.0466-25-4776 fax 25-4761

医療機関と保健所ひっばく 繰り返さないで

県 医療施設従事医師数の推移

2018年	2019年	2020年
18,784	19,492	20,596人

人口10万人当たりの医師数 2020年

神奈川順位	神奈川数値	全国数値
39位	223.0	256.6人

医療施設従事医師数は増えているものの、神奈川県は全国で39位と最低クラス

神奈川県議会・9月の第3回定例会で、コロナ禍のもと、脆弱な保健所体制、医療体制が明らかになりました。共産党県議団は、ひっばくを繰り返さないように、感染症医療とともに通常医療や救急医療を、余力のある医療体制、保健所体制への強化を求めてきました。

神奈川県は全国最下位クラスの医療、保健所体制であり、急いでいっそうの改善・拡充を図ることが必要です。知事は今までの対応を続けるという旨の答弁で、県民の命を軽視しています。

コロナ後遺症も深刻です。オミクロン株の後遺症には、倦怠感、頭痛、認知機能の低下などがみられ、「何軒も病院を探した」「治療法の確立とともに、治療法の早急な共有と、更新が県内の医師間でできるようにしてほしい。」などの要望も寄せられています。「コロナ後遺症相談窓口」を設置し、生活相談窓口にも対応できる仕組みを作るよう、引き続き、求めていきます。

なを子の花だより

キンモクセイ

秋を知らせる甘い香りのキンモクセイ。香りがすると思わず何処にあるのかとその木を探してしまいます。花言葉は謙虚・陶醉です。白い花のギンモクセイもあります。実をつけるそうですが、皆さん見たことがありますか？



県政は遠くにみえる？

市民の要望実現のために県政が果たす役割とは



(10月10日 藤沢市内の各地域で政策を訴えました。)

神奈川県は「暮らし・安全・環境」「健康・福祉・子育て」「教育・文化・スポーツ」「観光・名産」「産業・働く」「電子県庁・電子運営」に分類されます。

(神奈川県HPより)

たとえば、交通安全施設整備、河川整備、急傾斜地対策、県営住宅、保健衛生、中小企業支援、県立高校、特別支援学校など暮らしに直結する施策はたくさんあります。

みんなの要望を実現するためには県の予算の使い方を変え、市町村を応援する県政に変えることが必要です。ところが知事は、国のいいなりで県民の要望には背をむけています。

小児医療費助成制度は、藤沢市は中学卒業まで無料ですが、県は小学校入学までの予算しか、市町村に出していません。そのため、市が不足分を担っています。県の助成年齢が引き上げられれば、市の負担は減り、その分を別の、子育てや教育などの予算に使えます。

また重度障がい者医療費助成制度についても、県は予算を減らしてきました。そこで、市が不足分を負担しているのです。

市町村が県の不足分を補い、制度を充実させているのに、県は17年間も制度の充実をおこなっていないのです。

神奈川県は全国一、中学校給食の実施率が低い県です。みんなで一緒に食べられる中学校給食を実現するには、県が中学校給食促進補助費をつくれれば、市の負担を減らし、実施しやすくなります。また藤沢市民の強い要望であるシルバーパスの実施も、県が高齢者移動支援を市におこなうことですすみます。県が応援することで市政が変わります。

これまで共産党県議団は現地を見て、その声を聞き、議会で県民要望を発言したり、質問して政策提案をおこなってきました。

**神奈川県豊かな財政を活かせば、県民の要望に応えることができる！
そのことを明らかにし、さらに皆さんと力をあわせて取り組みます。**



(左から3番目が加藤なを子)

日本共産党ボランティア登録 in 湘南

「チラシを折ることなら・・・」「友人にパンフを渡したい。」
「ご近所へのポスティングなら・・・」など支援の申し出があります。
「何かお手伝いしたいのだけれど、どこに言えばいいのかわからない」という方もおられました。左記の登録・連絡フォームを作成しました。みなさま、お力をお貸し下さい

